

私は幼い頃から海や魚が好きで、大学は水産学部へ進み、卒業後は北海道庁の水産技師として採用されました。初任地は日本有数の漁業生産地であるオホーツク総合振興局に配属され、今まで全く縁の無かった漁港の業務を担当することとなりました。漁業が盛んということはそれだけ港も重要で、地元からの様々な要望に応えるため、わからないなりに奮闘する日々を送っていました。そんな中、複数の漁港整備計画に携わり、周りの方々のご指導やご協力のおかげで施設完成まで至ることができ、「ものを作るって大変だけど凄い!」とすっかり水産土木の魅力にはまってしまうことができました。その後は、水産林務部水産振興課へ異動となり漁場の整備計画を担当しました。そこでは元々好きだった魚の知識に加え、漁港で学んだ土木の知識を生かすことができ、仕事は大変でしたが学ぶこと一つ一つが新鮮で充実した日々を送ることができました。

技術士については尊敬する先輩方が持っている資格のため、いつかは取得したいな、と漠然とした憧れを抱き続けていました。試験前には技術士の先輩方に手厚くご指導して頂き、なんとか合格することができました。当時はコロナ禍で色々と制限があった中、休日に時間を割いて頂くことも多々あり皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。現在は水産土木の業務からは離れ、水産流通の分野で経験を積んでおります。水産の世界に足を踏み入れ10年以上経ちますが、まだまだ知らないことが多くあり継続研鑽の大切さについて日々実感しております。引き続き北海道の水産業界の発展のため努力を続けたいと思いますので、今後ともよろしく申し上げます。

上條 明日菜 (かみじょう あすな)

●水産部門(水産土木)

勤務先

北海道水産林務部水産局
水産経営課



→次号は、鈴木英裕さん(水産部門)

私は函館の高校を卒業後、北見工業大学に進学、大学院を修了後、1996年(平成8年)に現在の会社に入社し、主に橋梁・耐震設計分野に28年間、携わっております。1999年(平成11年)から数年間、開発土木研究所(現 寒地土木研究所)で行われていた斜角橋脚の地震時挙動の実験供試体設計およびデータの分析に携りました。当時、アラミド繊維巻立ての補強効果を考慮できる計算ソフトがなかったため、地震時保有水平耐力法をExcelのマクロで組んだり、汎用ソフトでの動的応答解析やFEM解析・地盤と構造物との相互作用解析を行ったりと、解析三昧の日々を過ごしました。

技術士資格は、2002年(平成14年)に建設部門(鋼構造及びコンクリート)を取得しました。当時は実務経験7年で受験が出来たので、受けてみたというのが正直なところですが、軽い気持ちで臨んだのですが、受験準備として作成した論文を添削してもらった結果は散々なもので、ほぼ、「書き直せ!」に近い指摘だったことを覚えています。厳しい指摘に何度も書き直し合格できたことが自分自身の成長につながったと感じています。その後、2009年(平成21年)に総合技術監理部門についても取得しました。

「技術士」とは何か? 改めて考えてみると「資格」以上の意味が有ると感じています。今までの経験の中から、技術と真摯に向き合うこと。より良いものをつくること。安心・安全を社会に届けること。これらの一つ一つが「技術士である」という事なのだ、とつくづく感じる事が出来ました。

これから受験を考えている人たちに向けて、確かに言えることは技術士になるということは、「技術者として生きる」ための、覚悟であり誇りであるという事です。頑張ってください。

青地 知也 (あおち ともや)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)
総合技術監理部門(建設)

勤務先

株式会社開発工営社



→次号は、村田良英さん(建設部門)